



1999年
No. 114

編集
全国膠原病友の会
畠澤千代子
〒102-0071 東京都千代田区富士見2-4-9-203
電話 03-3288-0721

平成11年度

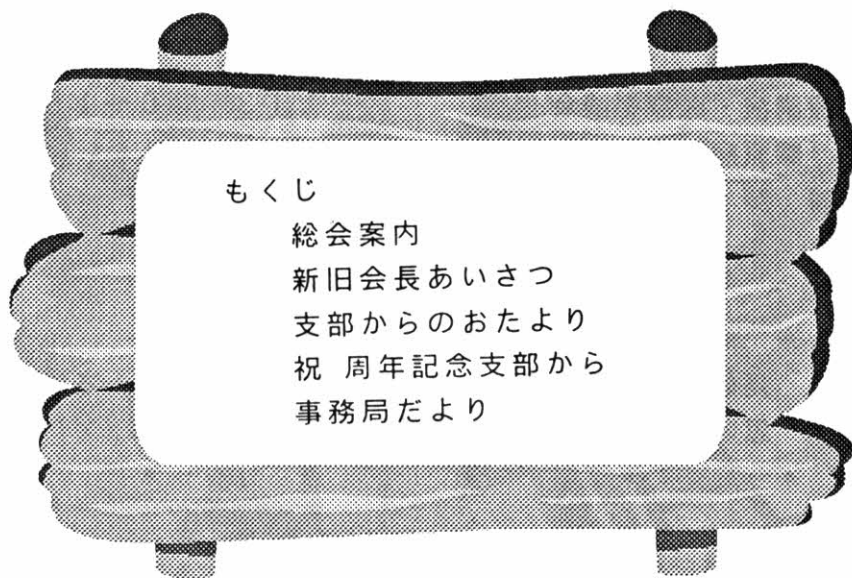
総会のご案内

8月1日(日)

in 東京

昭和五十一年二月二十五日
平成十一年六月二十日発行

第三種郵便物許可(毎週四回・月曜・火曜・木曜・金曜発行)
SSKO 増刊通巻第三六七八号



平成11年度 全国膠原病友の会 本部総会

と き：平成11年8月1日(日)

午前10時15分～午後3時

ところ：江戸東京博物館 ホール

東京都墨田区横網 1-4-1 TEL 03-3272-8600

※次ページの案内図を参照 (ホール入館は無料)

◆…♥…♣…◆プログラム◆…♥…♣…◆

I. 総会(資料当日配布) 10:15～11:00

II. 講演会 11:00～12:30

「介護保険について」

講師：厚生省老人保健福祉局介護保険制度施行準備室

次長 三浦 公嗣 氏

休憩(館内にレストランあります) 12:30～13:30

III. 医療講演・医療相談会 13:30～15:00

「膠原病の合併症」

講師：順天堂大学医学部膠原病内科

教授 橋本 博史 先生

※ …… ※ …… ※ …… ※ …… ※ …… ※

夏休みの一日を日差しに気をつけてお出かけ下さい。

思いがけない出会いを期待して!

※ …… ※ …… ※ …… ※ …… ※ …… ※

交通のご案内

電車 ご利用の場合/JR総武線両国駅西口下車 徒歩3分

●東京駅	→ 山手線 (5分)	→ 秋葉原駅	総武線各駅停車 (5分)	→ 両国駅
●上野駅				
●新宿駅	→ 中央線・快速 (10分)	→ お茶の水駅	総武線各駅停車 (7分)	→ 両国駅
●千葉駅	→ 総武線・快速 (35分)	→ 錦糸町駅	総武線各駅停車 (3分)	→ 両国駅

団体バス 首都高速6号向島線駒形ランプか、(高速ご利用) 首都高速7号小松川線錦糸町ランプより、ともに約10分

路線バス ご利用の場合

- バス停「横網一丁目(江戸東京博物館前)」下車 徒歩3分
(門) 33 亀戸駅 ←→ 豊海水産埠頭
(錦) 27 小岩駅 ←→ 両国駅
(墨) 38 東京都リハビリテーション病院 ←→ 両国駅
- バス停「緑一丁目」下車 徒歩5分
(門) 33 亀戸駅 ←→ 豊海水産埠頭
(草) 28 神田駅 ←→ 葛西橋

●開館時間

午前10時～午後6時
(木・金曜日は午後8時まで)
※入館は閉館の30分前までとなっています。

●休館日

毎週月曜日(月曜日が祝日または振替休日の場合は、その翌日)
年末年始(12月28日～1月4日)

●常設展観覧料

(映像ホール上映観覧料を含む)

	個人	団体 (20人以上)
大人	600円	480円
小・中・高校生	300円	240円

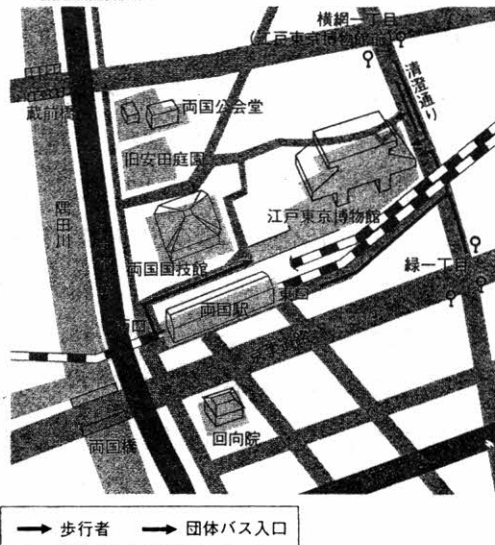
※観覧券は1Fまたは3Fのチケットうりばでお買い求めください。
※企画展の料金については別に定めます。

※一般車両(マイカー)用の駐車場はございませんので、車でのご来館はご遠慮ください

両国付近



入館経路



8年間をふりかえって



前会長 湯川 英典

平成3年6月、会長に就任して8年間、色々なことがありました。

会員数も4,000人から6,000人と増え、会の活動の一つとして患者一人一人が専門医の先生から個別に相談を受けられるよう地方に支部の設立をと力を入れ福岡県支部をはじめ最近では、鳥根県支部、岩手県支部と8年間に11の支部が設立し、大きな成果がありました。現在32の支部があり、各支部ごとに地方に合わせた独自の活動をしておられます。

25周年記念事業として膠原病患者家族実態調査を実施し、皆様方のお手もとに膠原病白書『患者の生活向上にむけて』として配布させていただきました。もうこの調査資料をもとに行政等に活用されている方がおられると思います。そして、この集計作業は栃木県支部の運営委員の方々の協力があったればこそといって過言ではないでしょう。

昨年5月に特定疾患に自己負担が導入され、医療保険の改悪などによる医療費の自己負担増をはじめとして、年金の将来への不安、消費税率の引き上げによる生活不安増、福祉施策の後退、介護保険の創設など、様々な問題がいきなり国民の前に姿を現し、多くの難病患者・長期慢性疾患患者のささやかな希望の光さえ奪おうとしています。この統一地方選挙におきまして大阪では、またもや横山ノック知事の再選となり福祉切り捨て等の財政再建プログラムがいよいよ動きだします。これからは、大阪支部の活動に傾注してまいりますので皆様よろしくお願ひいたします。

最後になりましたが、この8年間会長としてこの職務を遂行できたのも、事務局のお力添えがあり、役員の皆様方そして会員各位の協力があつたればこそと感謝しております。畠澤会長をはじめ新しい役員の方々、これからも本部活動をよろしくお願ひいたします。

どうぞよろしくお願ひします

新会長 畠澤千代子



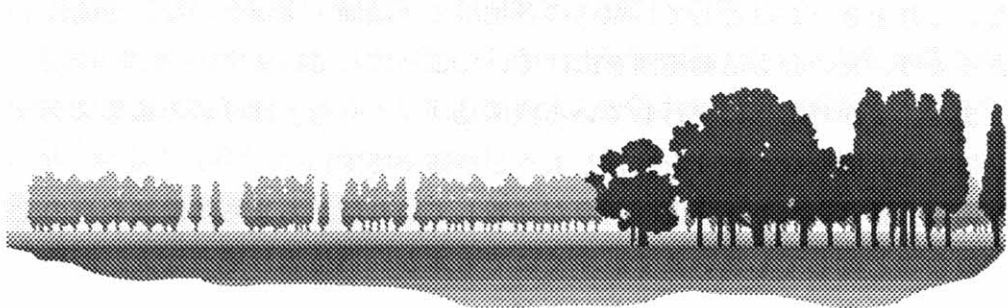
新年度を迎え、本部役員体制（候補）も新しくなりました。

私自身、病歴は長い（SLE35年）ものの、会の運営ではまだ日も浅く、今回の大役に日々、責任の重さを痛感している次第です。

医療費公費負担が一部自己負担になり1年が過ぎました。会員の皆様も思いは様々でしょうが、一生続く病です。皆様の声が反映できますように役員一同、会の運営に携わるつもりでございます。

まだまだ、手探り状態ですが、少しずつ前進して支部と支部の良いパイプ役になりますよう、また微力ですが本部として行政への訴え等懸命に努めたいと思っております。

8年間にわたり、大変な時期に会長として務められました湯川様はじめ、事務局、役員の方々に感謝申しあげるとともに、今後とも友の会の支えとしてアドバイスいただければ幸いに存じます。





支部からのおたより



島根県支部

事務局 梶谷 令子

《 近況報告 》

只今、パワー全開です！

私たち島根県支部が昨年10月25日に発足して以来、早くも半年がたちました。

その間、昨年12月には医療講演・交流会を開催しました。

島根県は細長い県であり、更に役員が東部に集中していることから西部地域での活動がまだありません。そこで以前より西部地域の健康福祉センター（保健所）に協力を働きかけていましたところ、近々、健康福祉センター主催により「膠原病患者・家族のつどい」を開催してもらえることになりました。これをきっかけとして、県内の各地域で「講演・交流会」などが開催できるよう、友の会も活動範囲を広げていくことにしています。

また、1か月おきに発行している機関誌「すくらむ」は9名の編集スタッフにより、間もなくNo.4を発行しようと準備中です。

編集会議ともなりますと、司会が油断していればたちまち体験談や身の上相談会場と化してしまいます。すぐにも本が一冊位書けそうな人、原稿なしで体験発表のできそうな人などなど、本人さえ気づかなかった才能を発揮する人もいて、人材は豊富です。

ワープロやパソコンの腕前が上達するにつれて、あれもこれもと、ページ数は増える一方です。「楽しみに待っているよ」という会員さんの声に励まされてみんな益々張り切っています。

全国の各支部から送ってまいります機関誌も大いに参考にさせていただいて、支部活動はたどたどしいながら軌道に乗り始めようとしています。

新年度に向かって、島根県支部は只今パワー全開です。

《 お知恵拝借 》

支部の活動費の資金調達はどうしていますか？

本部からの助成金1,500円で足りていますか。

足りないところはどのように工面されているのでしょうか。各支部での工夫を教えてください。

兵庫支部

事務局 西口 英二

会員の要望を汲み取って満足していただく様に取り組み、県下他の難病団体と共同で行なっている年間4回の医療講演・相談会の他に、この2年、会員の交流を深める目的でバス旅行を催しています。参加された会員の方々からは大変好評を受けていますが、豪華なバスの座席を満席にできないのが残念です。これからは会員からの要望を取り入れて、より多くの会員の方が参加し、満足して頂ける催しを企画していきたいと思えます。

役員の数が少ないのはどの支部も共通の悩みだと思います。兵庫支部でも医療等について会員の方々から電話での相談を受けますが、事務局が男性の為か、対応に限界があるのが悩みです。

三重県支部

支部長 佐々木幸子

「支部だより」5周年記念号「もう一度ここから」を発行しました。
5月9日の総会に支部会員の皆様に渡すよう準備をしております。

5周年記念号「もう一度ここから」発行にあたって

5年前、顧問の清水先生を始め四日市保健所の皆様のご指導のもと、前支部長の今村時子さんや当時のスタッフの方々の努力と献身的な働きにより、今日の「友の会」の基礎を作っていただきました。お陰でここに5周年を迎えることが出来ました事を感謝致しております。

当時は、患者自身もあまり病気のことや治療の事も判らず、ただうろたえ不安にくれる毎日であったと思います。まして、ご家族や職場の方はなおさら「膠原病」という名前も判ってもらえない状況ではなかったかと推察致します。それから5年の間に治療法も著しく進歩してきました。世間でも「膠原病」というと難しい病気ですねと答えてくれる人もあるようになりました。が今だ原因も確実な治療法もなく難病に違いありません。「友の会」においても、患者自身が病気に対し正しい知識と理解が出来るように、「医療講演」「勉強会」をしてきました。また、交流会を通じてお互いの悩みを話し合い精神的に支え合い励まし合ってきました。

しかし、まだまだ病気に対する不安、病気であることによって起こる家庭生活や職場への影響など問題が多いのが現状です。

ここに、5周年を記念して家族を含めた私たちの体験を「本」にしようと思いました。患者一人一人の病気、家庭環境は違っていますがこれまでの体験を通して得た悩み、苦しみ、そして周囲の方々から受けたあたたかい愛の手を多くの人に読んでいただきたい。そして少しでも病気に対し理解していただければと思います。

昨年より、難病患者を取り巻く情勢は厳しく、厚生省は一部公費負担、対象患者における重症度基準の導入を実施致しました。私たちの中にも働くこ

とができず、家族に経済的に多くの負担を掛けている方が多くいます。これ以上の負担を掛けることはできません。難病対策が今以上に後退しないように、私たち患者会を通じて行政に現状を訴え続けていく必要があります。それには皆さん一人一人の声が大事なのです。

そういった声を「もう一度ここから」かけ橋増刊号(5周年記念)としてまとめました。患者自身の生活向上のためと広く世間一般の方々にも「膠原病」を理解していただければ幸いです。

愛知県支部

支部長 久保田恵美子

- ・活動…グループ相談会(春)
若者コーナー・中高年コーナー
☆とても好評で毎回入れています。
- ・努力していること(財政難のため)
会報「山びこ」の紙質をうすくして印刷代を安くして送料の負担を少なくした。

神奈川県支部



☆提 案

- ・「膠原病友の会」を患者に知ってもらいたいが、その為はどうしたらよいか話し合った結果、病院で「リウマチ友の会」のポスターを見たという報告があり、「膠原病友の会」でも作れないかという事になりました。
- ・総会時の講演会のテーマを「膠原病患者にとっての介護保険」として欲しい。

大阪支部

事務局 今井 育子

この春、人事異動(?)がありました。長年、会長と大阪支部長を兼務してこられた湯川さんが大阪支部長専任となり、また、長期間事務局を代行してくださっていた布引さんにかわり、私、今井が引継ぎました。

私が友の会に入会して一年が過ぎました。入会当時から支部の行事や運営委員会に参加させていただきましたが、まさか事務局を引き受けることになるとは思ってもみませんでした。

先日も、早速入会の問い合わせがあり、申し込み書をお送りするなど、初めて事務局らしい仕事をさせていただきました。このお問い合わせの方は、私が今仕事で夜遅くなる日が続いたため電話に出られず、2度ほどかけなおししていただいたようで、ご迷惑をおかけしてしまいました。

私自身、病気を通して知ったことは、自分がいろいろな方の力添えで生きているのだということです。だから状態が非常に良くなった今、今度は自分が人にしてさしあげられることに力を注ごうという気持ちになりました。事務局を務めさせて頂けることを嬉しく思っています。

とりあえずは支部総会に向けての準備にかかっています。仕事との両立でなかなか進まないのですが、運営委員の方々のご協力を得て頑張ります。慣れないうちは多々ご迷惑をかけることがあるとは思いますが、どうぞよろしく願いいたします。



茨城県支部

支部長 千葉 洋子

活 動

総会・医療講演・相談会・一泊交流(食事会)・会報発行等

今年は、4月25日に総会・医療相談会を行い、アトラクションとして日本舞踊をボランティアという形でお願いしましたが、市議会選挙と重なり、また、あいにくの雨で参加者はいつもより少なかった。

茨城独自の良いこと

- ① 難病福祉見舞金制度について、関東地区で茨城は遅れていましたが、昨年夏に膠原病を主として、パーキンソン病友の会とともに請願・陳情を行い、その結果、本年4月より何ヶ所かの市町村で実施の実現を得られました。

今後も茨城の福祉の向上に向けて続けて行きます。

- ② 医療講演に関しては、総会に出席出来ない方の為にビデオをとり、貸し出しをしています、
- ③ 総会時、看護学生さんにお手伝いをお願いし、病をよく理解して現場に立った時、患者に優しく対応して頂けるようにしています。
また、私たちはお手伝いにより大変助けて頂いています。
- ④ ここ1、2年アトラクションにより、一寸の間だけでも病を忘れて楽しめるよう企画もしています。

困っていること

不景気で寄付も少なく、会費納入も悪く財源が乏しい為、バザーを毎年行っていますが、品物が集まらず役員が四苦八苦しなから頑張っています。

今年は会報が出せるかどうかの状況でもあります。パソコンをふるに活用して節約に努めていますが、他支部での良いアドバイスを求めています。

東京支部

支部長 畠澤千代子

今年は支部設立25年になります。会員も700人を超え、運営委員が少なく活動の企画も大変です。年3回の交流会(講演会・バス旅行等)と「膠原とうきょう」の発行。いろいろ要望はありますが、参加者は少なく、考えてしまうこともあります。これも友の会の役割だと思い、続けることに意義があると役員一同頑張っております。本部との関わりもふくめ、支部には何かと協力依頼があるかと思いますが、皆、輪を大事に楽しく関わっていきつもりでいます。今年の本部総会は支部会員共々、楽しみにしております。

関西ブロック

事務局 久保田百合子

会員の皆様の中には、「関西ブロック」って支部とはどこが違うの?活動は?組織は?と疑問に思われている方もおられると思います。そこで新しい企画のこのコーナー、第1回目は関西ブロックの説明から始めたいと思います。

〈会の発足〉

昭和46年11月に東京において友の会(現在の本部)が設立した翌年に、関西方面の患者・家族が集まり関西支部を作りました。活動を続けていく中で会員数も増え、京都・兵庫・大阪(和歌山を包括)・奈良・滋賀と各支部が独立していき、その名を関西ブロックと改め、今日まで26年余りに亘り活動を続けて来ました。

〈活動の内容〉

現在はこの5支部が集まって、機関誌『明日への道』ブロック版の発行をはじめ“宿泊交流会”や“教壇に立つ活動”、闘病記や手引書等の書籍の発行、等の活動を広域的に行い、各支部の交流をはかっています。

〈既刊発行書籍〉

- 1 闘病体験の文集『闘』1号～4号
- 2 関西ブロック10周年記念誌『みちしるべ』
- 3 膠原病を考える集い報告集『患者とともに』(¥1000)
- 4 膠原病患者による膠原病患者のための手引き『羅しんばん』I・II号(各¥1200)
- 5 関西ブロック20周年記念誌『明日への道を照らし続けて』(¥1200)
- 6 膠原病患者からの提言『私の願い・あなたの願い』(¥800)
- 7 関西ブロック25周年記念誌『ともに生きる』(¥1700+送料¥164)

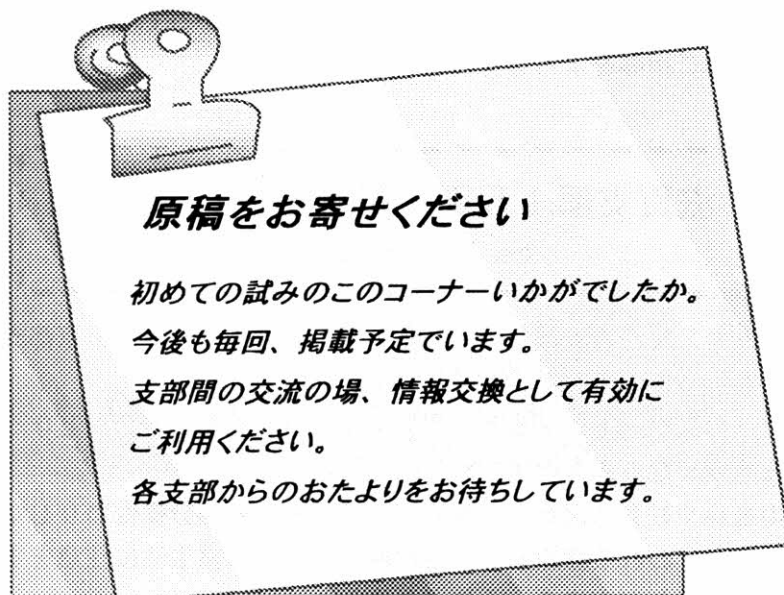
※上記発行書籍(3～7)のご注文はハガキにて下記までお申し込み下さい。

〒664-0856 兵庫県伊丹市梅ノ木5-5-14

関西ブロック事務局 久保田百合子宛

〈今後の行事予定〉

10月23～24日に、「第10回宿泊交流会」を京都市内にて開催します。詳しい内容は次回『膠原』No.115でお知らせいたしますので、参加してみたいと思われる方は次号をお見のがしなく！！





周年記念支部 だより

高知支部設立記念総会

支部長 竹島和賀子

平成11年5月23日、32番目の支部として高知支部の設立総会を開催いたしました。112名の出席者を迎え盛会となったのも、皆様方から助言していただいたお陰だと深く感謝しております。

四国内で初めての支部発足と言うことで、片道2時間以上も掛け出席された患者さんもおられ、本当に仲間同士集い、話し合う場が必要だと改めて実感いたしました。

高知県の地域性や、5年後に県立病院と高知市民病院が統合され、通院が不便になること、また四国の他県の患者さんが、遠くても入会したいという方にどれだけのことができるか等、問題は沢山ありますが、患者・家族の方が友の会に何を望んでいるのか、何を期待しているのか、会員の声を聞きながら各支部をお手本にして役員一同少しずつ出来ることから目標に向かって活動を進めていきますので皆様方のご指導をよろしくお願いいたします。

滋賀支部15周年記念

～ 明日への道 No. 43より ～

昭和59年7月滋賀支部が誕生いたしました。それまでは、京都支部と共に京滋の活動を行っていました。

滋賀支部のスタートは18名。今では110名を超える会員となっています。ずいぶん大きくなったものですね。

医学の進歩や社会状況から、膠原病のイメージも随分様変わりしたように思います。難病といわれる膠原病も、慢性疾患として日常生活に注意をすれば、随分元気に過ごすことが出来るようになりました。

それとともに、友の会の活動も必要とされる内容が少しずつ変わってきていま

す。しかし、いくら元気に過ごすことができるようになったとはいえ、あなどれないのがこの病気。まだまだ大変な状態の方もいらっしゃいます。

今後も、私たちに必要な知識をよく知り、よりよい生活を目指していきたいと思います。そのためにも、私たちにとって必要な活動をますます充実させていきたいと思っています。

特に膠原病の医療に対して、手薄な滋賀県は県外に頼っている状況が続いています。友の会では発足以来、京大病院の先生方に顧問となっていただき安心の限りですが、まだまだ会を知らない方、知っていても世間の目があるからと入会したくてもできないという方も滋賀にはまだ多くいらっしゃいます。啓蒙により一層力をいれていきたいと思っています。どうか皆様のご協力をお願いします。

(15周年記念として、機関誌を保存できるファイルを作成いたしました)

千葉支部設立20周年総会&祝賀会を迎えて

支部長 杉山ひろみ

5月15日土曜日午後6時より、記念総会&祝賀会が、千葉市幕張にあるグリーンタワーホテルで開催されました。日頃より大変お世話になっている諸先生方をお招きし、当会の会長畠澤さんにもおいで頂くことができ、本当に充実した記念大会だったと感謝申し上げます。又、前会長の湯川さんをはじめ沢山の支部からの祝電や、メッセージを頂き、全国組織の頼もしさを感じた次第です。

思い起こせば20年前、小さな公共の会館を借りて、千葉大学病院の第二内科教授だった熊谷先生をお呼びしての医療相談会からのスタートでした。先生の方もお慣れになっていらっしゃらないし、患者の私たちも、もちろん慣れていないし、緊張感の少し漂う中での何時間かが過ぎていったような思い出があります。直ぐに先生が他の大学に移られましたので、後任の顧問の先生、現在も顧問をして頂いてます野崎先生を推薦していただきました。

支部の会員さんは約80名ぐらいたったと思います。野崎先生から沢山の先生を紹介していただきながら、医療相談会形式の活動が暫くありました。

10周年より前支部長の篠崎さんからバトンタッチし、支部長としてやらせていただくことになりました。支部長会議や本部総会に出席させていただくうち、諸先輩方の参考意見等を勉強し、まねをしながら支部として基礎を築きました。現在は支部会員も3倍以上に増え、役員さんも役割分担出来るようになってきま

した。

以前より支部会員さん方から要望があった宿泊交流会を計画し、実行するチャンスを得ました。1年前から予約をしなければならぬので、皆様から返事がくるまでは、「ドキドキ」でしたが、当日まで参加の窓口を広げました。祝賀会では6つの丸いテーブルの好きなどころに着席していただきました。あっという間の2時間でしたが、名残惜しそうに帰宅される方、2次会に残られる方、宿泊に残られる方、皆様の様子を拝見して頑張って実行してよかったと本当に嬉しくなりました。

今回の計画の実行にはもうひとつの訳がありました。それは、2年前に支部会員さんが亡くなり、ご遺族の方が「何か記念になることに」ということでご寄付を下さいました。その方が亡くなる何年前に、私たちの顧問の先生のお一人が身体が少し不自由だった彼女を背負って、ヨーロッパ旅行の一員として連れていかけてくださっていました。グループのメンバーももちろん協力し、無事帰国できたのです。彼女が心から喜んだのは言うまでもありません。

20年・・・私は30代に突入したばかりでした。SLE歴21年ですので、私の闘病は殆どが友の会との関わりになります。「こんなはずではなかった」と思うこともあります。悩んでいる病友が元気を回復していく様が、ただ嬉しくてここまで来てしまったような気がします。時には誤解されて突然のお叱りを受ける時があります。そんな時、質問や話し合いをどうして持とうとしないのだろうかとか疑問に思ったりしますし、支部長をすることにも疑問を感じてしまいます。

これからの支部の活動はもっともっと充実さを要求されるような気がします。自分の発病した当時の初心を忘れずに、役員同士の和と健康を気遣いながら千葉支部としての長を生かして行きたいと思っています。そのためには、今までと同様に、いやそれ以上に多くの仲間たちの支援や協力が必要です。体調の安定している方、家族の方で健常者の方、ご協力よろしくお願いします。

東京支部25周年記念総会

記念講演会「膠原病の原因究明とこれからの治療法」

東條 毅先生(国立病院東京医療センター 院長)

「膠原病患者の日常生活と医療機関との関わり」

猪熊 茂子先生(都立駒込病院アレルギー膠原病医長)

「25周年記念講演」として冊子にして発行予定

会費振り込みのお願い

☆ 振込先

郵便振替口座

口座番号 : 00180-2-116096

加入者名 : 全国膠原病友の会

支部がある都道府県の方は支部へお振り込みください。

進学・就職・転勤などで住所変更された方は、本部または
支部事務局へも必ずご連絡ください。



本のご紹介

病気の理解に役立つ本です。本部で扱っています。お近くの本屋さんでも注文できます。

「新版 膠原病を克服する ー患者の療養のための最新医学情報ー」

順天堂大学医学部教授 橋本 博史 著

平成7年11月発行 保健同人社 送料共 1,810円

「名医のわかりやすい リウマチ・膠原病」

東京医科歯科大学教授 宮坂 信之 著

平成7年4月発行 同文書院 送料共 1,510円

「わかりやすい 膠原病・リウマチ用語事典」

竹原 和彦・野島 美久・相馬 良直 監修

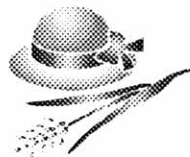
平成9年1月発行 診療新社 送料共 3,740円

事務局だより

☆事務局に関わるようになって、まるで2ヶ月が半年または1年たったように感じるほど、無我夢中の状態で、今まで

にない様々なことをここ数ヶ月で経験させてもらいました。

わからないことばかりでしたので、他のスタッフの方にいる
 いろいろ聞きながら毎日が過ぎていきました。あらゆる種類の仕事をこなさなければ
 ならないため、最初はとても大変でした。けれども、何とか全体の流れが見えは
 じめ、何とか落ち着いて仕事ができるようになってきた感じです。まだまだ、役
 員の方々や会員の皆様にご迷惑を掛けながらですが、少しずつ事務処理を円滑に
 進められるように頑張っていきたいと思っています。微力ですがよろしくお願い
 します。



(鈴木真澄 埼玉県支部 SLE 勤務 月～金 10時～4時)



☆4月より一会員から本部事務局を手伝わせていただいでい
 ます。私は役員の方々が病気を持ちながら友の会の活動に奮
 闘されている姿に、いつも感謝の気持ちで一杯でした。今回、
 こんな形で友の会をお手伝いでき、嬉しく思います。そして、

2ヶ月あまり患者さんのご相談をお聞きして、私も同じ経験、思いをしてきたな
 と感じております。電話の対応や事務処理と慣れないことばかりで瞬く間に一日
 が終わります。電話ではまだ聞き役だけですが、少しでも会員の皆様のお役に立
 てますよう努めたいと思っています。(立川富美子 東京支部 SLE 月・火・水)

☆新体制でスタートした本部役員、お互いに協力しつつ手探り
 状態ですが、何とかここまで来ました。新しいパソコンも購入し
 高橋さん(東京支部 MCTD 木)も事務処理に関わり、少し



ずつ事務局体制も整いつつあります。事務局の役割の大きさを
 痛感しております。まだ不備の点もございますが、一同努力しておりますので
 よろしくお願い致します。お近くへお出掛けの時はお立ち寄り下さい。

(会長 畠澤千代子 SLE 金)

昭和51年2月25日第3種郵便物許可(毎週4回・月曜・火曜・木曜・金曜発行)

平成11年6月20日発行 SSKO 増刊通巻第3678号

発行人・障害者団体定期刊行物協会

東京都世田谷区砧6-26-21

定価200円